

【日本の大学】第73回——弘前大学：本州最北の中堅総合大学

弘前大学は本州の北端、青森県津軽地方の中心地弘前市に本部、キャンパスを構える中堅の国立大学である。1949年に新制大学として設立されたが、母体となった学校のうち青森県小学師範学校の創立は1876年にさかのぼるなど長い歴史を誇っている。

青森県で唯一の国立大学でありながら、青森の名が付いていないのは、弘前が江戸時代の津軽藩の城下町として発展してきたこと、戦争末期に、青森市が空襲に遭って前身である青森師範学校や青森医学専門学校が全焼、空襲の被害を免れた弘前市に移転したことが理由として上げられる。県名でも県庁所在地でもない名称を冠した唯一の国立大学である。



文京町キャンパス正門

世界に発信、地域で創造

理念としては、「教育基本法の本質にのっとり、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、人類文化に貢献しうる教養識見を備えた人格者の育成をもって目的とする」と謳っており、スローガンとして「世界に発信し、地域と共に創造する」をモットーに、「総合大学の機能と特徴を最大限活用し、地域社会と密接

に連携しながら、グローバルな視点に立った教育並びに基礎的、応用的、学際的研究を推進する」としている。

以下、弘前大学のホームページなどから、大学の歴史や現状をみていこう。

新制の弘前大学が設立されたのは1949年であり、弘前高等学校、青森師範学校、青森青年師範学校、青森医学専門学校、弘前医科大学の5校を母体として発足した。スタートは文理学部、教育学部、医学部の3学部であった。

現在は、人文社会科学部、教育学部、医学部（医学科、保健学科、心理支援科学科）、理工学部、農学生命科学部があり、大学院はそれらの学部に対応した研究科（修士課程、博士課程）などをそれぞれ持っている。

文理学部は、1920年に設立された旧制弘前高等学校からつながっている学部である。文学科と理学科だったが、1951年に農学科を増設。農学科は1955年には農学部として分離独立した。1965年には人文学部へと改称改組され、文学科、経済学科の2学科とし、理学部と、教養部（1997年に廃止）が分離独立した。1980年には文学科を人文学科と改組、学科内を5コース（人文基礎、人間行動、日本文化、東洋文化、西洋文化）を設けた。1989年には、大学院の人文科学研究科（修士課程）を設けている。



弘大カフェ（大正14年、旧制弘前高校の外国人宿舎として建てられた西洋風建築物で、長年弘前大学職員宿舎として利用されてきました。平成28年6月には、「弘大カフェ」としてリニューアルオープンし、一般市民にも開放しています。）

社会的課題解決に新学部

2016年には、人文学部を、人文社会科学部に改組している。これは、多角的な文化理解、現代社会に対する多面的理解を目指したもので、文化創生課程の文化資源学、多文化共生の2コースと、社会経営課程の経済法律、企業戦略、地域行動の3コース、合わせて5コースを設けた。現代は科学技術が急速に進んでいるが、一方多くの社会的課題が解決されずに残っている。地球環境問題、富や教育の格差問題などは、改善しているとは言い難い状況である。人文社会科学は、これらの課題に応えるカギを握っており、学部では、現実社会の諸問題に立ち向かう力を培うため二つの特徴のあるカリキュラムを展開している。一つは、実習・演習を重視していること。もう一つは、グローバルな実践活動に力を入れていることである。

教育学部の前身は、明治時代の初め1876年までさかのぼる。師範学校規則によって青森県立小学師範学校の本校を青森に、分校を弘前に創設した。その後、小学師範学校の県立師範学校への改称、県立女子師範学校の設置（以上1878年）、県立実業補習学校教員養成所の設置（1931年、のちの青年師範学校）などの変遷を経て、終戦を迎えた。新制の弘前大学の教育学部は、弘前本校のほか、野辺地分校があった（野辺地分校は1960年に閉校）。

1960年の段階で、小学校教員養成課程の定員は155名、中学校課程は定員が110名となった。1966年には養護教諭養成所（3年制）、68年には特別教科（看護）教員養成課程（4年制）、73年に幼稚園教員養成課程（4年制）などがそれぞれ設置されている。大学院の教育学研究科（修士課程）は1994年に設置された。2016年には学部の改編を実施し、現在は、学校教育教員養成課程の中に、小学校コース、中学校コース、特別支援教育専攻があり、別に養護教諭養成課程がある。学部の学生は706名（うち女性437名）である。（2022年5月現在）



創立 50 周年記念会館

医学部は 1944 年に設置された青森医学専門学校と 48 年に設置された弘前医科大学を包括して 1949 年に新制大学の医学部医学科として設置された。大学院の医学研究科（博士課程）が置かれたのは 1958 年である。医学科の特色は、「地域を志向した教育」、「社会の変化に対応した教育」、「リサーチマインドの育成」をあげている。これらを実現するため、「早期臨床体験実習」「地域（へき地）医療実習」や研修室での研修の充実などを図っている。

医学部は医学科のほかに、保健学科と心理支援科学科がある。保健学科は多様な保健医療専門職を養成する狙いで、教育学部の特別教科（看護）教員養成課程と医療技術短期大学部を前身として 2000 年に設置された。看護学、放射線技術科学、検査技術科学、理学療法学、作業療法学の五つの専攻からなっている。

医学部心理支援科学科は、公認心理師養成を図る学士課程として 2020 年に開設された。心理学・臨床心理学だけでなく、医学・保健学など専門領域に関する知識と技能の修得と科学的思考力、こころの問題に対する感受性、悩める人に寄り添う姿勢、生命に対する高い倫理性の涵養を図る。心理支援職としての役割を通して、地域住民の健康と福祉に寄与し、社会に貢献する人材を養成する。



大学医学部附属病院

学際的課題対応に組織改革

理工学部は、1965年に文理学部の改組で誕生した理学部（数学科、物理学科、化学科、生物学科）が1997年に農学部と改組して設置された。5学科で構成、数理システム科学科、物質理工学科、地球環境学科、電子情報システム工学科、知能機械システム工学科である。基礎分野を重視し、より広い応用・発展分野へ裾野を広げるカリキュラムを編成し、地球規模の学際的な諸問題に対応できる人材の育成をしていく。

現在は、数物科学科、物質創成化学科、地球環境防災学科、電子情報工学科、機械科学科、自然エネルギー学科の6学科となっており、付属研究施設としては、地球火山観測所、医用システム創造フロンティア、寒地気象実験室を設置して、教育・研究及び社会貢献活動に取り組んでいる。

1955年に設置された農学部は1990年には、学科を改組して生物資源科学科、農業生産科学科、農業システム工学科を設置したり、大学院（博士課程）で、岩手、弘前、山形3大学で構成する岩手大学大学院連合農学研究科に参加したり、改革を実施してきた。さらに、1997年には農学部と理学系の生物学・生命科学分野との融合を目指して、農学生命科学部が発足した。



雪のキャンパス風景

農学生命科学部の学科は、生物学科、分子生命科学科、食料資源学科、国際園芸農学科、地域環境工学科の5学科からなっており、各学科のコアカリキュラムの充実に加えて、他学科の講義を選択して受講できるようにしたため、幅広い学習機会を得られる仕組みとなっている。20世紀以降顕在化した人口増加に伴う食料生産問題、地球温暖化や生物多様性の劣化をはじめとする環境問題に対応できる人材育成を目指す。

大学では世界の22か国・地域の54の大学・機関と大学間交流協定を締結している。各部局では併せて42の大学・機関と部局間交流協定を結んでいる。外国人留学生は学部が13か国・地域から計69名が、大学院は7か国から計90名が留学している。(いずれも2022年5月現在) 日本への留学については、短期留学プログラム(交換留学)、サマープログラム(コロナ感染拡大で開催を中止中)、学部や大学院への入学などがある。外国人留学生に対しては、新入学ガイダンス、各種行事への参加、指導教員制度、チューター制度(日本人学生によるサポート)などの機会を設けている。



ねぷたまつり（55年連続出場）

学部の学生数は医学部 1660 名（うち女性 951 名）、理工学部 1509 名（うち女性 210 名）、人文社会科学部 1186 名（うち女性 655 名）など合計 5979 名（うち女性 2624 名）。大学院学生数は 979 名（うち女性 302 名）である。（いずれも 2022 年 5 月現在）

教職員数は 2034 名（うち女性 995 名）である。（2022 年 5 月現在）



総合文化祭

学長は福田眞作氏である。弘前大学医学部卒、1994年弘前大学医学部助手、98年に附属病院助教授、2007年大学院医学研究科教授、2016年附属病院長などを経て、2020年から現職。

日文：滝川 進

写真：弘前大学 HP&FaceBook